

項番	1	2	3	4	
1	コミュニティ名	アジャイルプロセス協議会	EASEプロジェクト (EASE: Empirical Approach to Software Engineering)	高品質ソフトウェア技術交流会 (QuaSTom)	ソフトウェア技術者協会 関西支部 (SEA関西)
パネルの話題1: テストへの取り組み					
2	テストについて、どのようなアプローチをされていますか？	アジャイルプロセスにおいても、品質・テストは重要なポイントです。協議会ではアジャイルプロセスにおけるTDDなどの手法を通じ、より良い品質を追求しています。	同一プロジェクト内においては、製造工程からの包括的なアプローチを、派生開発においては、類似不具合検出により、Prioritized Testingの判断材料を提供する手法を検討しております。具体的には以下のとおりです。 ・コード行数運移に基づき、製造工程で問題になった不安定な部分の特定 ・不具合の発見工程や発生原因に基づく修正工数の分析 ・ソースコード類似箇所の検索(コードクローン解析)による類似不具合の発見支援 ・不具合管理票等の不具合に関する情報から知見の獲得	特にはテストに特化した取り組みをされているわけではありませんが、短納期での品質確保の問題に対してTDDなどは非常に効果的ではないかと興味を持っています。テストという性格上、長い時間が取れる場合等で、実際に使える、やってみるという企画は随時行っています。	具体的なテストの方法論や技法よりも、ソフトウェア開発に関わる様々な要素との関わりの中で、テストや他の品質向上の活動を考えていきたいと考えています。
3	テストについて、どのようなポジションでコミュニティを運営されていますか？	品質を専門に扱うWGはありませんが、各WGにおいても、品質やテストにおける重要性は「当たり前のごとく」として、取り扱っております。	上述3の検討を商用開発のソフトウェアを対象として、産官学で連携をとりながら評価、発表、普及活動しております。学側においても、業務経験者を中心に、普及時点はもちろん評価時点でも、実際の開発プロセスに組込むことを考慮しながら活動を進めております。	マネジメントもエンジニアリングもフラットに如何に品質に寄与するかを考えたいと思っています。	ソフトウェア開発に関わる、様々なテーマの中のひとつとして、テストを取り上げています。取り上げるに際しては、テストの専門の研究者や著名な実践者の方々に講演とディスカッションをお願いし、実践的な知識と技術者同士の交流を深める形を目指しています。
4	テストについて、コミュニティの会員からどのような声をよくききますか？	具体的には聞いておりません。	・共同研究先からテストをどこで切り上げればよいか決めるのが困難という声をよく伺います。 ・効率的なテスト(レビュー)のために必要な道具立てがほしいという声をよく伺います。 ・有効な(バグ的中率の高い)テストができているかどうかを判断するためのメトリクスがほしいという声をよく伺います。	現状では、人間系の話が多いと思われず、テスト項目の多さと短納期という視点からテスト手法に関しては割りと興味がありそうです。	「テスト」というよりも「品質向上」という観点から、テストそのものの他、ソフトウェアアーキテクチャ、形式手法、プロダクトライン開発などが参考になるとの声を聞いたことがあります。分科会として特に「テスト」や「品質」に重点を置いているという意識はありませんが、ソフトウェア開発を総合的に取り上げることが、広い意味での「品質」につながるということだと思えます。
パネルの話題2: 人間系、マネジメント、チームビルディングにフォーカスをあてた取り組み					
5	マネジメントについて、どのようなアプローチをされていますか？	特にアジャイルプロセスは人間を重視しています。より良いソフトウェアは、より良い人間関係から生まれる、そのような価値観を前提に、マネジメント・チームビルディングを行います。	・管理者支援ツールやその利用方法の検討、普及	ネゴシエーションの部分、特に経営層とのコミットメントやプロジェクトメンバーとのコミットメントという2面における検討はしてみたいと思っています。	マネジメントについても、テストと同様です。
6	マネジメントについて、どのようなアプローチでコミュニティを運営されていますか？	アジャイルソフトウェア開発の価値 ・プロセスやツールより人と人同士の相互作用を重視する。 ・包括的なドキュメントより動作するソフトウェアを重視する。 ・契約上の交渉よりも顧客との協働を重視する。 ・計画に従うことよりも変化に対応することを重視する。 を重視し、これらの価値に則ったマネジメントを重視します。	・誰のための支援かが明確になるよう努力しており、プロジェクトマネジメント支援のテーマについては、開発支援部隊向けの検討テーマとは異なる観点で取り組んでおります。 ・プロジェクトメンバーに役立つ計測を主眼においた検討テーマもいくつかあります。	上記にも書きましたが、コミットメント等とはもすれば愚痴大会になりがちなので、ここでも、ハンズオンでの講習等、実践とまでは行かなくてもやってみる、経験することにごこだわっています。	これも、テストと同様です。
7	マネジメントについて、コミュニティの会員からどのような声をよくききますか？	具体的には聞いておりません。	・人材育成に関する体系的な知識がないかという質問をいただきます。 ・プロジェクトマネージャからは、デザイン、ソースコードレビュー効率計測を目的とした人的属性(モチベーションの高さ、スキルの高さ)のメトリクスがないかという質問をいただきます。	会員の実際の悩みの部分の解決手法ということで、ファシリテーション、ティーチング、コーチングなどのスキルに対する話が多いと思います。	今のところ、特にマネジメントの面からの意見はあまり聞いたことがありません。
パネルの話題3: 品質改善に関するコミュニティとのかかわり					
8	品質活動においてコミュニティが手伝えるところは何でしょうか？	TDDに代表されるアジャイルな手法の普及・啓蒙	・支援ツールによる品質リスク推定 ・プロセス品質(網羅的ではなく重点的に見たい部分)の可視化	・モチベーションのアップ。 「悩んでいるのは自分だけじゃない」 「癒されますよね、違う視点からの分析、解決方法の検討。」 「でも、癒されるだけじゃ解決しない」 「思いもつかない視点の発見、目からうろこ。」 自分の冷静な立ち位置の確認。 ・ベストプラクティス、ワーストプラクティスの提示。 「では、実際になにをできるんだろう」 手法の習得、理論の裏づけ 利害のない立場でのオープンなやり取り	ソフトウェア開発の様々な側面を幅広く取り上げることで、品質というものが、ソフトウェア開発に関わるすべての活動のトータルな成果である、ということを示すことができると考えています。また、自分とは異なる経験や考え方を持つ人達との出会いを通して、ソフトウェア開発についての多面的な理解価値観を身につけるお手伝いができればと思っています。
9	備考				

5	6	7	8	9
ソフトウェア技術者ネットワーク (S-open)	てふかん (TEF関西勉強会)	日本XPユーザグループ関西 (XPJUG関西)	プロジェクトファシリテーションプロジェクト (PFP)	モデル検査によるソフトウェアテストの実践研究会
S-openでは、テストに関連する研究としてソフトウェアメトリクスに関する研究会を実施しております。この中には、「定量的テスト完了判断基準」の研究を行い、JaSST06東京で発表させていただきました。また、今年度は「繰り返しテストに関するメトリクス」の研究を始めました。	ソフトウェアテストに関する書籍の読書会やテスト手法の勉強会の企画を通じて、メンバーの思いや悩みを共有し、個人レベルでの意識、知識向上を推進することを目標としています。自分と同じように、どうすれば良いか悩んでいる人や、模索している人を見ると、自分も頑張れると思っています。	<テストへの取り組み> ・テスト駆動型開発 <品質への取り組み> ・ペアプログラミング ・計画ゲーム ・オンサイト顧客 ・短期リリース ・シンプルデザイン	プロジェクトファシリテーションは、メンバーがそれぞれのスキルを発揮し、総和として100%以上の力を発揮するようなチーム作りをするための技術です。テスト技術者(テスト設計者、テスト実施者)も開発チームにとっては重要なチームメンバーです。テスト技術者がそれぞれのスキルを最大限に発揮して、テストがより価値のある、生産的な活動になるように、ノウハウや考え方の共有ができる場を提供していくことが、PFPの役割だと考えています。	モデル検査技術は、従来のテスト手法である動作試験・シミュレーション・コードレビュー等にとって替わると併用しながら「使い分け」を行っています。あまり複雑ではない不具合やバグの発見、システム全体の広範囲にわたる試験では従来手法を用いています。逆に、微妙なタイミングや複雑な条件で発生する不具合やバグの発見、本格運用前の原因不明のバグ解析、システムの中核部分の試験はモデル検査を用いて、一段上の品質向上を図っています。
S-openは、「ソフトウェア開発現場に役に立つ、少し先の技術」というスタンスで研究をしており、特にテストにフォーカスしてありません。今まではありませんが、テストについても、今後会員のニーズがあれば、テスト技術やテストに関連する様々な技術の研究を行っていく所存です。	特にターゲットを絞らない個人の集まりとして、現場の人間から管理職まで多数参加されています。	・XPは、ソフトウェアを「楽しく、しっかりと」開発するための手法です。「しっかりと開発」するためには、テストが必要不可欠です。XPの開発方法は、その中に「テスト」が折込済みとなっています。XPのテスト手法である「テスト駆動型開発」こそ、品質を確保するための効果的かつ効果的な手法であると考えています。	コミュニティに参加いただいているテスト技術者の方から、プロジェクトファシリテーションの観点で、テストがより効果的で、より生産性のある活動になるためのノウハウをフィードバックいただき、多様な技術者に適合するための考え方や技術の共有を進めたいと思っています。	本コミュニティはテスト工程や特定のプロジェクトに所属せず、開発工程全体の外側からモデル検査の適用を促し、現場ニーズに応じて協力体制をとりモデル検査を実施しています。しかしながら、将来的にはソフトウェア開発プロセスのテスト段階の一部としてモデル検査フェーズを組み込むことにも興味があります。
テストについての直接的な活動をしていないため、多くの意見を聞けずはありませんが、ソフトウェア品質やメトリクスに関する報告や研究会では、常に多くの参加者があります。非常に関心が高い分野であると感じています。	テスト計画を立案したり、他部署と連携したりする時の苦労話が多いです。	・XPで重要とされる「コミュニケーション重視」という価値は、品質に大きな影響を及ぼします。 ・TDDやペアプロは、問題をその場で見つけ、是正することができます。 ・TDDやペアプロを継続する事で、様々な問題をチームやプロジェクトの問題として取り組みやすくなることができず。 ・ペアプロしながらテストコードを先に書く事は、非常に適切なレビューとテスト設計であり、品質向上の効果が得られます。	テストにフォーカスした議論はこれまでもありませんでしたが、テスト技術者はチームに重要なメンバーになってきています。今後、様々なチームビルディングの手法を確立していくうえで、重要なテーマになっていくと考えています。	・テストのための時間をもっと確保したい。 ・体系的なテストをしたい。 ・テスト技術に精通したテストエンジニアが必要である。 ・様々なテスト手法が開発されているが、現場での普及が遅れている。(適用するための準備が大変 手軽に始められない、会社の理解が得られない) ・テストより開発の方が楽しい。 ・第三者によるテストが有効である。 ・テストを意識した設計をすることでテスト工数を削減できる。
S-openでは、モチベーションに関する研究会を実施しております。この中で、モチベーションを高めることでプロジェクトを成功に導く方法やプロセス改善の効率的に行う方法などの研究を行っています。また、最近では、人間の感性をマネジメントにどのように活かすか、という研究を始めました。この中では、男性脳と女性脳の違いに着目し、効果的なチームビルディングの方法を研究しています。	今は特にありません。	・バーンダウンチャート ・カード枚数による進捗把握 ・ペアプログラミングの活用	プロジェクトマネジメント(PM)が計画達成のためのマネジメントに重きを置くのに対して、プロジェクトファシリテーション(PF)は、「参加者の協働の場作り」に重点を置きます。PMは、計画の立案と実行、差異に注目した管理が中心で、どちらかと言うと「コマンド・コントロール型」のマネジメントスタイルが背後にあります。これに対してプロジェクトファシリテーションは、その場その場の変化に対応し、チームが協力し合って創発的成果を出していく、「リーダーシップ・コラボレーション型」の新しいチーム作りの形を重視します。PFPでは、メンバーがプロジェクトの成功のためにできる、ソフトウェア開発の見え方や、チームのリズム作り、効率の良い場作りの手法を検討し、手法の確立を進めています。	これまでの経験から、モデル検査を行う場合、「対象システムの設計者とモデル検査担当者がペアを組んで協力できること」「モデル検査の経験が浅い担当者には、熟練者がサポートできること」を前提として行っています。それが難しい場合は、モデル検査を行っても大きな成果が得られません。
テスト同様、S-openは、マネジメントにフォーカスしている訳ではありません。しかし、人に関する研究は増えてきているような印象を持っています。	今は特にありません。	・ソフトウェア開発において、よく言われている問題の一つに「コミュニケーション」の問題があります。XPを含む「アジャイル開発」では、コミュニケーションを重要視しています。ペアプログラミングや、朝会などによる頻繁なコミュニケーションにより、チームのコミュニケーションの向上を図っています。	管理という意味でのマネジメントは重要ですが、PFでは、メンバーの自発的なチーム運営を促すための手法を提供しています。コミュニティでは、参加者が、自分のプロジェクトで行われている様々なPF活用事例の紹介や、他のプロジェクトへの適応、手法の確立ができるような議論の場を提供しています。	コミュニティが直接、モデル検査をマネジメントしておらず、参加企業がそれぞれで行っています。
マネジメントも、常に多くの参加者があり、関心の高い分野のひとつです。モチベーションの研究は、S-open設立以降、研究を続けている分野でもあります。特に最近では、会員の皆様から、モチベーションやチームビルディングで悩んでおられる声を良く聞くように思っています。	今は特にありません。	・カードでタスク分割を行い、壁に貼って「見える化」することで、マネージャ、ステークホルダなど、開発メンバー以外の方にもプロジェクトの状況を容易に把握することができます。 ・「見える化」により、開発者自身も強力な目標設定が可能となり、モチベーションもアップされ、楽しく開発することができます。	「チームメンバーのモチベーション」や、人と人とのコミュニケーションはマネジメント(管理)できない、ファシリテーションの考え方を取り入れて、メンバーの自発的なチーム作りをもっと促進させるべきである。という考え方が、コミュニティメンバーの共通認識です。	上記理由のため特になし。
品質活動に限らずそうですが、S-openは、ソフトウェア技術者個人を支援するコミュニティでありたいと考えています。プロジェクトや組織で、ソフトウェア技術者が孤立することなく、現場の改善を実行していくことができるために、同じ悩みを持った技術者たちが互いに切磋琢磨できる場の提供は重要だと考えます。	個人の意識、知識向上ありきで、組織・社会へと広がっていきます。この根幹部分であるはずの個人が、何かから手を付けて良いかわからないか、周りに相談できる人がいないか、そういった状況に陥ってしまっているのではと考えています。同じ立場を経験した人からは助言を、現在同じ悩みを持っている人とは共有を、それにより、組織や社会へのアプローチにも幅が出るはずだと思います。まず、外の世界を見る第一歩として、気軽に参加できる会合です。	・具体的なXP開発手法の説明 ・分科会によるプラクティスの勉強会(TDDなど) ・XPを導入するためのアドバイスなど	品質活動も、いかに多くの気付きや円滑なコミュニケーションができるかという、良いチーム作り依存するところは多いと思います。PFPでは、品質に関わるメンバーも含め、多様な技術者、マネージャの方々へ、より良いチームを作るためのノウハウや手法を共有する活動を今後も継続し、品質活動に貢献していきたいと思っています。	品質向上のために「モデル検査について知りたい」、「導入を検討中」とあるいは「試してみたいが難航している」といった状況に対しては、技術セミナー(教育)、ノウハウ提供、適用支援等により、本コミュニティでお手伝いできると考えています。また、モデル検査を始めとする様々なテスト手法や新しい技術をソフトウェア開発プロセスに組み込むための活動では、他コミュニティとも一緒に議論・相談したいと思っています。
				これまで、コミュニティ内でのモデル検査実施やセミナー開催を中心に活動してきましたが、今後、外部からの要請にも積極的に対応して行きたいと考えています。